

まるもりまち ひっぽ
丸森町筆甫地区

「ひっぽで援農！へそ大根用の大根収穫」を実施しました

平成30年11月24日(土)、丸森町筆甫地区で、特産品であるへそ大根用の大根収穫を手伝う援農ボランティアが開催されました。この活動は筆甫中区集落を中心に行われており、当日は、県内外の家族連れや大学生等44名が集まり、近年で1番の参加者数となりました。

「へそ大根」は、輪切りにして乾燥させた凍み大根のことで、形が「へそ」に似ていることから「へそ大根」と呼ばれています。古くから筆甫地区の特産品として作られていましたが、東日本大震災の影響を受け、生産が一時中断。その復活を目標に、当地区では平成28年から本格的にへそ大根の生産を再開。栽培面積も少しずつ広げ、地域一丸となって特産品の復活に取り組んでいます。



位置図



地域の方から収穫のコツを教えてください、大根収穫スタート！



とても力のいる作業でしたが、参加者みなで協力しながら、子どもから大人まで楽しんで収穫していました。

昼食は、へそ大根の煮物や地域の野菜を使った豚汁等、地域の女性手作りのごはんを、全員でいただきました。



美味しいごはん
ごちそうさまでした！

参加者のみなさんは、筆甫地区を応援したい、ボランティアがしたい、農作業を手伝いたい、等、様々な理由で参加しています。年齢や職業もそれぞれですが、こうした活動を通じ、普段は会うことができない方々と交流し、つながり、「縁」が生まれます。

筆甫地区では、このような地域内外の「縁」を大切に、地域が一丸となって特産品の生産や集落活動の維持に積極的に取り組んでいます。この活動を機に、筆甫地区の自然や人、農産物に関心を持っていただき、引き続き、筆甫地区に足を運んでいただければ幸いです。



参加していただいた皆様、ありがとうございました。

*この活動は、宮城県の「農山村集落体制づくり支援事業」の一環として行っているものです。宮城県ではこれからも農村集落や中山間地域の持続的発展を支援して参ります。

「農山村集落体制づくり支援事業」とは

宮城県では、平成25年から平成28年までの4年間、中山間地域等の農作業を支援する「集落支援事業」として、大河原管内の七ヶ宿町干蒲、丸森町筆甫、丸森町耕野の3地区で援農ボランティア活動の支援を行ってきました。これまでの参加者は、4年間で延べ約600人となり、各地域では、この活動を通じて特産品の生産継続や、東日本大震災による風評被害の払拭に取り組んできました。

そして、平成29年度からは「農山村集落体制づくり支援事業」として支援対象を宮城県内全域に拡大し、中山間地域に限らず、農山村集落の活性化に向けて支援を行っています。